

産総研 一般公開

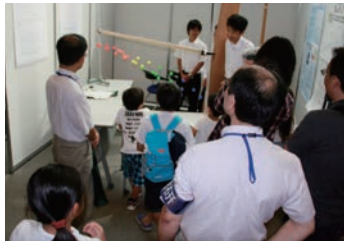
今年も全国各地の産総研で「一般公開」を開催しています。今回は、つくばセンター（7月20日）での体験コーナー、展示コーナーなどを報告いたします。



真夏ながらさわやかな天候のもと、昨年を上回る約5,900名の皆さまにお越しいただきました。ありがとうございました。



2012年イグノーベル賞を受賞した栗原一貴主任研究員が、受賞テーマである「スピーチャマー」のことや授賞式の様子についてお話ししました。また、実際にスピーチャマーを体験できるブースを会場内に設けました。



近隣の中学校・高校の理科系クラブの皆さんが、産総研の研究者とブースを並べて研究発表を行いました。



普段は見ることのできない産総研の研究施設を、ガイドつきでご案内しました。



地質標本館の来館者がこの日に100万人に達したため、記念イベントを行いました。



「サイエンストーク」では、小学生から大人の方までご参加いただき、研究者との熱心な対話が繰り広げられました。



地中熱利用の現状と展望について、NPO法人地中熱利用促進協会の笹田政克理事長にご講演いただきました。



「科学工作コーナー」の「モアレペン立て」では、縞模様が動く不思議な工作を楽しんでいただきました。



工作や実験など、楽しみながら科学技術にふれられる「チャレンジコーナー」には、たくさんのお子もたちが参加し、とてもにぎやかでした。

東アジア・アセアン経済研究センター事務総長の来訪

報告

2013年6月18日、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の西村事務総長が産総研東京本部を訪問され、中鉢理事長、瀬戸理事と会談されました。

会談では、産総研とERIAとの連携に関して意見交換を行い、今後も相互の協力関係を強化していくために、情報交換を続けていくことになりました。

ERIAは、東アジア経済統合の推進

を目的として、政策研究・政策提言を行う国際的機関として2008年に設立され、インドネシア・ジャカルタに本部を置いています。産総研は、2007年度より、バイオディーゼル燃料の標準化や、バイオマス利活用の持続性評価に関して、ERIAからの受託研究を実施しています。さらに、ERIA人材交流・育成プログラムにより、東アジア各国からの研究者・研修生を受け入れるな

ど、ERIAとの密接な連携を推進しています。



西村事務総長（左）と中鉢理事長

シンポジウム「広がるダイバーシティと日本を元気にするイノベーション」の開催

報告

2013年7月2日に、日経ホールにて開催された、シンポジウム「広がるダイバーシティと日本を元気にするイノベーション」には、産学官の各界から約400名の参加がありました。

シンポジウムでは、シカゴ大学 山口教授による基調講演、塩野義製薬 澤田専務および産総研 中西フェローによる特別講演が行われました。続いて、講演者によるパネルディスカッションで、女性の活用問題を中心に、

日本におけるダイバーシティの現状に関して議論されました。

「日本を元気にする産業技術会議」は、昨年12月に「もの、“こと”、“ひと”づくりで日本を元気にしよう！」と題した提言を発表しました。今後も提言内容をフォローアップするとともに、新たな課題について議論を続けます。提言や活動の詳細につきましては、右記のURLをご参照ください。

http://www.aist-renkeisensya.jp/ind_tech_council/



パネルディスカッションの様子

国際標準推進戦略シンポジウム「キッズデザインと生活支援ロボット」

報告

2013年7月3日に、イイノホールにて、国際標準推進戦略シンポジウム「キッズデザインと生活支援ロボット—その安全ガイドラインと国際認証戦略—」を開催しました。3回目となる今回は、産総研が標準化・認証の取組みに積極的に関わっているキッズデザインと生活支援ロボットを事例として取り上げ、企業の方を中心に約370名にご参加いただきました。

特別講演として経済産業省 土井良

治 基準認証政策課長、基調講演として欧州でロボットの社会受容の研究に携わっているドイツ オルデンブルク大学 松崎泰憲氏、ロボットスーツ HALの開発者である筑波大学大学院 山海嘉之教授にご講演いただくとともに、生活支援ロボットとキッズデザインそれぞれのテーマについて事例紹介を行いました。続いて行われたパネルディスカッションでは、「人間とシステムの相互作用における安全」をテ

マに会場の参加者も交えて議論されました。



パネルディスカッションの様子

国際度量衡局ミルトン局長らの来訪

報告

2013年7月26日、国際度量衡局 (BIPM) のミルトン局長、ヘンソン国際部長が産総研つくば本部を訪問され、中鉢理事長、川上理事、三木理事らと意見交換されました。

BIPMは国際メートル条約の事務局と研究機能を合わせもつ機関で、フランス・パリ郊外のセーブルにあります。ミルトン局長にとっては今年1月に第13代局長に就任されてから初めての来日です。会談では、中鉢理事長より産業やイノベーションを支える計測・計量標準の重要性とBIPMの活動への謝意が語られるとともに、ミルトン局長からは同分野における産総研の技術的・人的寄与を始めとする日本の貢献への謝辞が述べられました。

同日、計量標準総合センター (NMIJ) では、ミルトン局長による“Metrology: Worldwide Achievements and Future Opportunities”と題した約1時間の講演会も行われました。1875年締結のメートル条約に端を発する近代度量衡が現代社会を支える重要な技術インフラになっていること、計量標準の技術革新

に伴う国際単位系 (SI) の基本単位の再定義の話題などが提供され、活発な議論が交わされました。

ミルトン局長らは、週明けの7月29日に経済産業省を表敬訪問された後、次の訪問国である韓国に向かわれました。



中鉢理事長を中心に向かって左側がミルトン局長、右側がヘンソン国際部長



NMIJでの講演風景

社会的取り組み

33

産総研は憲章に「社会の中で、社会のために」と掲げ、持続発展可能な社会の実現に向けた研究開発をはじめ、社会的な取り組みを行っています。

地質標本館の最近の活動について

産総研つくばセンター一般公開の行われた2013年7月20日に、地質標本館では1980年8月19日の開館以来100万人目の来館者をお迎えすることができました。同日、100万人目の来館者となった牛久市の小学校3年生の女子児童とともに、地質標本館玄関前でささやかなセレモニーを開催しました。

この一般公開では、今年度実証試験として地質標本館映像室に導入されたばかりの地中熱利用の空調システムのお披露目を兼ねて、3回のミニツアーを開催しました。このミニツアーでは、映像室に設置されたファンコイルユニットと隣の準備室に設置されたヒートポンプユニット、および館外の掘削地点とあわせてご見学いただきました。また、映像室に設置したモニターでリアルタイム表示される地中熱システムの可動状況もご覧いただきました。なお、地質標本館ロビーでは、これと関連して7月17

日から9月29日まで、夏の特別展「地球の恵み 地熱・地中熱エネルギーを活用しよう」を開催しています。

また、東日本大震災後に地質分野の研究ユニットが取り組んでいる「複合地質リスク評価プロジェクト」の研究成果の一部として、糸魚川-静岡構造線活断層系の岡谷断層の大型はぎ取り標本（長野県岡谷市産）、西暦869年貞観地震による津波堆積物の大型はぎ取り標本（宮城県仙台市産）が、地質標本館ロビーにて現在公開中です。この2つは、事前にプレス発表されていたこともあり、はぎ取り標本としては日本最大級という迫力とあわせて、一般公開当日も来館者の関心と呼んでいました。

さらに、地質標本館ロビー天井の日本列島周辺の震源分布を16年ぶりに更新し、2011年東北地方太平洋沖地震を含む最近の被害地震の震源ランプを設置することができました。

地質標本館では、来館される皆様に、地質や地球内部のダイナミックな動きや、それに伴って起きうる地質災害等に関心を高めていただくよう、今後も努力を重ねていきたいと考えています。

地質標本館ウェブサイト：<http://www.gsj.jp/Muse/>



地質標本館来館者100万人達成のくす玉の前で記念写真
右から、中鉢理事長、100万人目となったお子さんとそのご家族、佃理事、利光地質標本館長

イベントの詳細と最新情報は、産総研のウェブサイト（イベント・講演会情報）に掲載しています
<http://www.aist.go.jp/>

EVENT Calendar

2013年9月 → 2013年11月

8月10日現在

期間	件名	開催地	問い合わせ先
9 September			
5日	NMIJ 標準物質セミナー 2013 ～きつと役立つ分析ノウハウと標準物質～	千葉	029-861-4118
9～13日	BiWO2013	東京	03-3599-8080
18日	シンポジウム「食」の新しい価値づくりで日本を元気に	東京	03-6812-8659
10 October			
15日	産総研本格研究ワークショップ	札幌	011-857-8406
22日	CSJ化学フェスタ・産総研特別企画「触媒技術で拓く化学産業の未来」	東京	029-861-6052
25日	産総研一般公開(中国センター)	東広島	082-420-8245
31日～11月1日	産総研オープンラボ 2013	つくば	029-849-1580
11 November			
9～10日	産総研一般公開(臨海副都心センター)	東京	03-3599-8006
12日	産総研本格研究ワークショップ	松山	087-869-3530
19日	産総研本格研究ワークショップ	仙台	022-237-5211

企業の経営層、研究者・技術者、大学・公的研究機関の方々のために、研究室公開と特別講演会を開催いたします。

産総研オープンラボ

2013.10.31(木) → 11.1(金)

■ 展示・公開時間=9:30~17:00 (2日目は16:30終了) ■ ご参加いただくには事前登録が必要です。

事前登録制 (お申し込みはこちら) <http://www.aist-openlab.jp/>

● 会場：産総研つくばセンター

■ 産総研オープンラボ事務局
〒305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-1 中央第2

電話：029-849-1580

Eメール：openlab2013-info-ml@aist.go.jp

※電話対応時間/平日：午前10時~12時、午後1時~4時

参加費
無料



【オープンラボ2013】の特別展示

■ 福島再生可能エネルギー研究所 / 特設会場



風力発電施設と次世代太陽電池モジュール施設 (完成予想図)

産総研は平成26年4月、福島県郡山市に再生可能エネルギーに関する中核的研究開発拠点を開設します。福島再生可能エネルギー研究所は、太陽光発電、エネルギー貯蔵、地熱、地中熱、エネルギーシステム統合技術に関する技術開発から実証までを扱います。オープンラボでは、連携研究機関、福島県、郡山市のご協力を得て、新拠点を中心とした研究展開をご紹介します。

■ つくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点 (TIA-nano)



蛍光XAFS実験装置 (KEKフォトンファクトリー)

TIA-nanoの新たなシンボルとなるTIA連携棟が、6月に産総研つくばセンター内にオープンしました。隣接するスーパークリーンルーム (SCR) 棟と共にナノテクノロジー分野の最先端の研究拠点となります。オープンラボでは、このTIA連携棟内の見学や各種展示を行うと共に、産総研内外のTIA-nano各研究施設を見学して回る「TIAツアー」を開催します。

主催：
技術を社会へ
Integration for Innovation
独立行政法人
産業技術総合研究所

後援：
経済産業省、茨城県、福島県、つくば市、郡山市、
一般社団法人日本経済団体連合会、
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、
つくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点運営最高会議
(順不同)